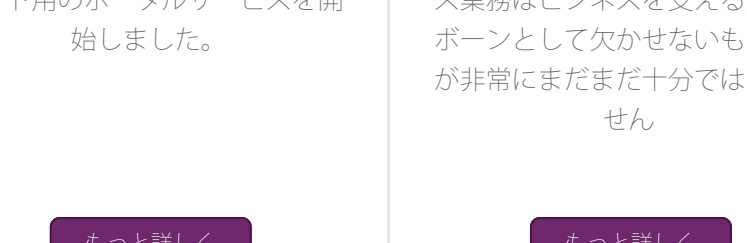


Sentinel LEAP

SafeNet

ソフトウェアライセンシングソリューション ニュース

Q4 2013



新しいカスタマーポータル

お客様向けに新しいテクニカルサポート用のポータルサービスを開始しました。

もっと詳しく知る

新しいライセンスング

ソフトウェア会社のバックオフィス業務はビジネスを変えるバックボーンとして欠かせないものですが非常にまだまだ十分ではありません

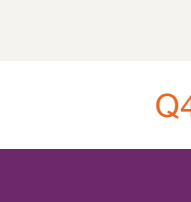
もっと詳しく知る

Sentinel LDK 7.0

Sentinel LDK 7.0は、次世代型ソフトウェアライセンスングソリューションの新バージョンです。

もっと詳しく知る

お問い合わせ



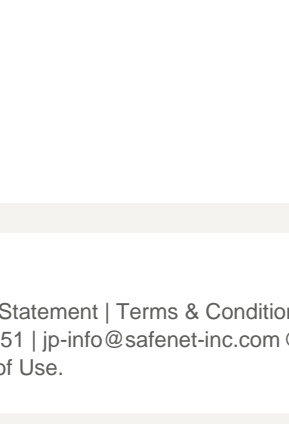
03-5776-2751

Sentinel LEAP - SafeNet ソフトウェア ライセンシング ソリューション ニュース

Q4 2013

企業ニュース

Home



新しいテクニカルサポートポータルを開始しました。お客様へのサービスをさらに充実させます

お客様向けに新しいテクニカルサポート用のポータルサービスを開始しました。これは、セーフネットがお客様満足度をさらに向上させるために取り組んでいるサービスの一つです。

新しいポータルを使うことで、関連資料を検索したりサポート問い合わせ一覧を管理することが可能です。下記のようなメリットを受けられます：

- お問い合わせしているインシデントの状況が見やすくなります
- より速くクローズできるよう支援します
- セルフサービス機能の向上

ポータルサイトへのログイン情報をまだ受け取れていない方がいらっしゃいましたらこちらからお問い合わせください。

さらに詳しい情報は support@safenet-inc.com までお問い合わせください。FAQ サイト (英語) では、今までの C3 サイトからシールへの移行についてさらに詳細な情報を掲載しております。

新しいサイトにログインすると、すべてのサービスリクエスト (問い合わせ中、クローズ済みとも) は、旧システムから移行されているため、再問い合わせする必要などはありません。お問い合わせ中のSR番号が見当たらない場合は、お手数ですが support@safenet-inc.com までご連絡ください。ご使用のアカウントを確認します。

今後の予定：

カスタマーフォーラムやライブのチャット機能などを加えていく予定です。

今後の機能強化について引き続きご連絡いたします。

セーフネット

業界ニュース

Sentinel LEAP - SafeNet ソフトウェア ライセンシング ソリューション ニュース

Q4 2013

業界ニュース

企業ニュース



ソフトウェア会社のバックオフィス：その不安定な構造

バックオフィスのソフトウェアテクノロジーは、ビジネスを支えるバックボーンとして欠かせないものです。しかし、エンタープライズリソースプランニング (ERP) ソフトウェアを使用する企業がソフトウェア会社である場合、バックオフィスシステムからの必要かつ柔軟なサポートはまだ十分ではありません。多くのソフトウェア会社において、サブスクリプションライセンス収益の認識、資格の照会、および契約書記録の取扱いなどのプロセスは、今までは人手による対応でほぼ十分でしたが、現在では業務内容の複雑化が重要な要件になっています。

ソフトウェア会社のバックオフィスの重要さは、さまざまな場面に表れます。たとえば顧客にとっては、発注書が処理された後、何か月たっても正しいアクティベーションコードが届かない時。見込み客がコスト見積と要件を問い合わせるたびに、対応したスタッフから異なる回答が返ってくる時。あるいはパートナー企業にとって、ライセンスポータルがエンタイルメント状況を適切に反映していないために、顧客からの注文や問い合わせに対応できない時。プロダクトマネージャにとっても、バックオフィスは非常に重要です。たとえライセンスングのアップローダーを一新しても、バックオフィスにそれをサポートする能力がなく、今後何か月先までサポート予定がないなら、プロダクトマネージャは競争圧力への対応も、新しい機会の創出もできません。

ソフトウェアライセンス業務は、ソフトウェア会社だけでなく、パートナー会社、顧客、そして株主の日常業務にも影響を与えます。業務内容やテクノロジーが貧弱であれば、ビジネスアジリティの低下、手作業の発生、エラーの可能性の増大、パートナー会社や顧客との関係悪化などにつながります。大半のソフトウェア会社のバックオフィスには、多くの改善の余地があります。

課題のひとつは、関係者の数多さに反して、明確な対応責任者がいないことです。プロダクト管理、エンジニアリング、カスタマーサポート、法務、営業などすべての業務スタッフは、ライセンスングとエンタイルメント管理の影響を受けますが、多くの人々はKPI目標達成のため、たとえ効率や効果が低下しても、貧弱なプロセスとテクノロジーに対して場当たり的な対応をするでしょう。トップダウンの業務戦略の欠如など、根本的なビジネス課題により、組織の機能不全はさらに悪化する場合もあります。テクノロジーを改善するだけでは、このような機能不全を解消できません。

ただ、ひとつの問題として、小さな改善によって大きな影響を生み出すことは可能です。バックオフィスの機能不全問題に取り組むにあたって、ソフトウェア会社はまず次のことを行う必要があります：

責任の所在を明確化し、適切なリソースを提供し、問題に対する気付きを醸成する

- コンプライアンス旅行などの職務について、指示を作成する
- 業務と損益の関係を明確にすることで、マネジメントの支持と参画を得る
- 共通のテクノロジーフレームワークを構築する
- 改革実施計画を作る

たとえば、柔軟なビジネスモデルで新規市場への参入を図るなどの挑戦は、バックオフィスからのサポートが貧弱であれば一層困難となり、従来型のソフトウェア企業が競争圧力に対応する際に大きな課題として立ちはたります。バックオフィスの問題はソフトウェア会社のあらゆる活動に影響を与えます。このような問題は短期的には無視できますが、対処しないまま放置すれば、長期的には企業の弱体化につながります。

ソフトウェア業界についての詳しいニュースは、[LicensingLive](#) をご覧ください。

イベント

Sentinel LEAP - SafeNet ソフトウェア ライセンシング ソリューション ニュース

Q4 2013

イベント

業界ニュース



SafeNet AppOnChip によるセキュリティ強化

SafeNet の新機能、AppOnChip では、Sentinel ハードウェアキーをアプリケーションに統合し、分割不能にします。この処理は完全に自動化されており、ソフトウェア開発会社は、アプリケーションから互換機能のリストを表示し、ハードウェアキーでコード、実行、暗号化および署名できる機能を指定します。この新しいセキュリティ機能により、市場トップクラスの安全なソフトウェアライセンシングが実現しました。

先日行われた「Ask the Experts (エキスパートに聞く)」セッションでは、セーフネットのセールスエンジニアが AppOnChip で可能な以下の機能と利点についてご案内しています：

- より強力なセキュリティ - AppOnChip ではアプリケーションの実行にトークンの提示が必要のため、権限のないソフトウェア使用の防止がさらに強化されています。
- 容易な実装 - ソフトウェアをハードウェアキーへ関連付け、トークンから実行するコードへ変換するための分析やコード変換処理は完全に自動化されています。エンジニアリング部門の間隔は必要ありません。
- ライセンスングの柔軟性を最大化 - 保護対象のコードブロックは、ハードウェアキーのストレージ容量を消費しないため、ソフトウェア開発会社はライセンスの保管に最大限のメモリを使用できます。
- エンドユーザの操作性に影響を与えない - AppOnChip 機能はエンドユーザの使用感にまったく影響を与えません。
- 運用の負担がない - ソフトウェアがバージョンアップしても、現場でキーをアップデートする作業は不要です。

AppOnChip について詳しくは、最新の「Ask the Experts (エキスパートに聞く)」ウェブキャストをご覧ください。



仮想環境における効果的なライセンスング

サーバやデスクトップなどの仮想化はもはやふたつものとなりつつありますが、ソフトウェア製作会社にとって最優先の課題は、このような仮想化の進んだネットワークに展開したアプリケーションの使用状況を追跡、制御、および管理できるようにすることです。

企業にとってネットワーク仮想化はコスト削減や効率向上に役立ちますが、ソフトウェア開発会社は従来、何らかの物理的実体とライセンスを結びつけることによって、ソフトウェアのアクセス管理や過剰使用の防止を行ってきたため、仮想環境は大きな問題となっていました。仮想環境では、故意か無意かにかかわらず、新しいインスタンスを追加する際にライセンス権を複製したり、ライセンスを一つのインスタンスから別のインスタンスに自由に移動したりすることは、非常に簡単です。

現在、市場には何種類かのソリューションが回っていますが、ソフトウェア製作会社がこの課題に対処するためには、どれもさまざまな制限があります。SafeNetは先頃、ノードロックへの依存を解消してこのようリスクに対処する、クラウドベースのソリューションを発表しました。つまり、仮想環境におけるライセンス管理に関連するすべてのリスクを解消する、業界初で唯一のソリューションです。

SafeNet と米国 IDC の専門家による講演では、以下の事項を取り上げます：

- 仮想環境におけるソフトウェア展開に関連するリスク
- 仮想環境におけるライセンスングのためのソリューション、その経緯、現状、そして今後の展望
- 業界ベストプラクティス - 仮想化の課題をチャンスに転じるには

次回Ask the Experts セミナーセッションでは、「仮想化と仮想環境においての効果的なソフトウェアライセンスング」について、ぜひご参加ください。

こちらから登録できます。

製品スポットライト

Sentinel LEAP - SafeNet ソフトウェア ライセンシング ソリューション ニュース

Q4 2013

製品スポットライト

イベント



Sentinel LDK 7.0

Sentinel License Development Kit (LDK) は、包括的なソフトウェア収益化ソリューションです。Web ベースのライセンス管理機能と、数々の賞を受賞しているソフトウェアコピーおよび知的財産 (IP) 保護機能を組み合わせて活用することが可能になります。また、SafeNet が新たにリリースしたハードウェアベースのソフトウェア保護 プラットフォーム「Sentinel HL」を組み合わせてることにより、包括的かつ革新的なソフトウェア収益化ソリューションとして使用できます。

- Sentinel LDK 7.0 は、ソフトウェア保護、ライセンスング、およびエンタイルメント管理を行うための SafeNet の包括的な次世代システムです。Sentinel LDK 7.0 は、Sentinel EMS と Sentinel HL の特徴を取り入れ革新的なソリューションとして使用できます。下記のような機能があります：
- AppOnChip
 - リバースエンジニアリングに対してより強固な保護機能 - 暗号化されたハードウェアキーを活用し、ソフトウェアアプリケーションの一部をハードウェアキーそのものから直接実行します。
 - IP 保護 - IP 保護の究極的なソリューションとして保障された暗号化ハードウェアキーを使い、ハードウェアドングルから直接実行することで知的財産を保護します。
- Sentinel HL Net、Sentinel HL NetTime のドライバレス化 - ソフトウェアを実行するためのデバイスドライバをインストールまたはアップロードする必要がありません。ドライバなしで動作するようになります。
- SL Legacy ライセンス用サポート追加 - Sentinel LDK は、Sentinel HASP Business Studio 上で作成された SL Legacy ライセンスをサポートするようにしました。
- Windows CE のサポート - Sentinel LDK のランタイム環境 (バージョン 5.95) および Envelope の提供物は、Windows CE バージョン 5.0 および 6.0 をサポートするようになりました。

SafeNet の AppOnChip によるソフトウェア保護技術がもたらす強みとは

- その強力なセキュリティ - AppOnChip はコードの一部をハードウェアトークン上で実行させ、その結果を持ってソフトウェアアプリケーションが実行されるため、ハードウェアキーなくソフトウェアアプリケーションが実行できなくなります。ソフトウェア開発会社は、GUI による非常に簡単な設定でこの機能を使用することができます。
- 容易な実装 - ソフトウェアをハードウェアキーへ関連付け、トークンから実行するコードへ変換するための分析やコード変換はすべて自動的に行われます。エンジニアリング部門の間隔は必要ありません。
- トークンに保存されるものがない - 他のソリューションと違い、すべての実行ファイルは保護されたソフトウェアアプリケーションが実行される機体のハードウェアに保管され、アプリケーションの実行時にのみ、コードの一部がハードウェアトークン上に実行されます。実行キーのローザメーブルへは影響を与えません。
- 内部プロセスへ影響を与えない - 保護されたソフトウェアアプリケーションはソフトウェア開発会社からのバージョンアップを要求せず、保護されたソフトウェアの新バージョンに対して現場でのキーのアップデートを必要としません。
- エンドユーザの操作性に影響を与えない - AppOnChip 機能はエンドユーザの操作性に対して影響を与えません。
- 追加コスト不要 - AppOnChip 機能は Sentinel LDK 7.0 をご購入いただいているお客様は無料でご利用いただけます。(今後のリリースについては、別途ライセンスモジュールの購入が必要になる可能性があります。)

今すぐ始めてください！ Sentinel LDK と AppOnChip についてご覧ください！

製品スポットライト - Linux ARM 向け Sentinel LDK 6.4 Embedded

Sentinel LDK Embedded for Linux ARM は、ARM プロセッサを使用する組み込みデバイス向けに初めて開発された、Sentinel LDK の低プロファイル製品です。多くの組み込み機器は、デスクトップやサーバマシンに比べて、非常に少ないメモリとストレージで稼働しています。ディスクにはフラッシュチップを使用し、ボードやデバイス専用メモリ (RAM) を搭載し、処理能力や使用できる帯域幅も標準的なデスクトップ環境よりもはるかに制限されています。

Sentinel LDK Embedded for Linux ARM は、Sentinel LDK のサブセット版であり、これは、Sentinel HL (ドライバレス構成) スタンドアロンキーを Linux ARM プラットフォームでサポートします。そして実装は LDK の Licensing API を使用します。そのため、ランタイム環境とプロテクトされたアプリケーションに必要なストレージ容量や必要リソースを標準の Sentinel LDK よりも抑えることができます。

- Sentinel LDK Embedded 6.4 は、ライセンス生成するためには Sentinel LDK が必要です
- サポートされるエンドユーザー向けプラットフォームは次の通りです
 - Sentinel LDK Embedded Run-time 環境と保護対象のアプリケーションをインストールできるオペレーティングシステム：Ubuntu 11.10
 - Sentinel LDK Embedded Run-time 環境と保護対象のアプリケーションをインストールできるプラットフォーム：Beagle Board xM (ARM Cortex-A8 または互換性のある CPU)

Sentinel LDK Embedded for Linux ARM はこちらからダウンロードいただけます。

成功の要因

Privacy Statement | Terms & Conditions of Sale | SafeNet | 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-17 船政門センタービル8F | 03-5776-2751 | jp-info@safenet-inc.com © 2013 SafeNet Inc. All rights reserved. | Use of this website signifies your agreement to the Terms of Use.

Sentinel LEAP - SafeNet ソフトウェア ライセンシング ソリューション ニュース

Q4 2013

成功の要因

製品スポットライト



セールスエンジニアのマーク・ホーバスは語る

北米セールスエンジニアのマーク・ホーバスが語る聞きました。マークは、イリノイ大学シカゴ校では、電気工学・コンピュータサイエンスの理学士号を、ワッド大学では経営学修士号 (MBA) を、メーランド大学ユニバーシティカレッジでサイバーセキュリティの理学修士号を取得するなど、複数の学位を所持しています。

SafeNetに入社する以前には、主に軍用航空電子工学および車両電子工学関係の米国防衛省の請負企業に勤務していたそうです。長年にわたり軍関係のキャリアを経験し、彼は「民間企業レベル」の「民分」分野に転身しました。マークは、SafeNetのソフトウェア収益化事業部に配属され約3年近くになりましたが、常に仕事を楽しくしています。オフィスのロケーション素晴らしい、革新的なプロジェクトや優秀な同僚などと日々働いています。

セールスエンジニアの実際の仕事とは、何ですか？

初めてのお客様に迎える時、私は「営業チームの技術回り担当」と冗談まじりに自己紹介することがよくあります。つまり、営業はお客様のビジネスニーズを満たすことが仕事ですが、セールスエンジニアはお客様の要件の「技術回り」を管理するのです。私たちの仕事は、お客様に技術知識を提供し、当社の製品がお客様のニーズを満たすことを知って安心していただくことです。

平均的な一日を教えてください。

セールスエンジニアに「平均的な一日」はありません。我々の生活は、お客様との熱い議論に明け暮れる日から、最新テクノロジーの勉強に没頭する「静かな面」まで、様々な面があります。従来の開発エンジニアは一度に1件から最大でも3件のプロジェクトに従事していました。営業系エンジニアである私たちは一度に6-10件のお客様を担当することがあります。それぞれのお客様にニーズに合った回答をお届けるための努力は欠かせませんし、高いサービスレベルの維持にも熱心に励んでいます。「静かな時間」が取れた時、自己管理のできるセールスエンジニアであれば、その時間を新製品の機能について最新情報を把握するために使います。

専門のテクノロジー分野は何ですか？

組み込みシステムを扱ったオペレーティングシステムの内部動作を理解したりするのが好きです。特にLinuxを扱うのは面白いですね。

SafeNetのセールスエンジニアでなかったら、何をしていたと思いますか？

SafeNetに入社していなければ、私の本来のペースである組み込みシステムの分野に戻り、何か挑戦をしていくでしょう。おそらく、サイバーセキュリティ関連だと思います。

セールスエンジニアでなければ、ビールの醸造職人になっていたかもしれません。同僚はみんな、質の高いですが、実は私は自家製ビールの醸造に興味があります。料理も好きで、これはどちらか、質の高い究極のものを作り出すには手間の工夫や創造力が必要だと、エンジニアリングとよく似ています。

ビール職人がうまくいかなければ、F1のレーシングドライバーもいけません。もっとも、大金持ちのスポンサーを見つけなければならないし、ダイエットもしない。